

**平成24年度 第2回 京の環境共生推進計画評価検討部会
議事摘録**

日 時 平成25年2月8日（金） 14時00分～15時00分
場 所 職員会館かもがわ 1階第1会議室
出席者 小幡部会長、板倉委員、外池氏（奥原委員代理）、徳地委員、吉村委員
欠席者 大久保委員、深尾委員、村瀬委員

内容

1 開会

2 前回の京の環境共生推進計画評価検討部会における御意見に対する回答

（山田計画調整担当課長）前回の京の環境共生推進計画評価検討部会（以下、「部会」という）において、環境指標のうち、「透水性舗装延長」は単年度で、「親水性のある河川空間の整備延長」は累積で集計しており、集計方法が異なる点について御意見いただいた。その理由について、歩道の透水性舗装は、整備後に劣化し、同じ歩道を再整備することも予想されることから単年度で集計することが望ましい。一方、親水性のある河川空間の整備延長は、流域全体を一体的に捉え、複数年かけて整備していくことから累計で集計することが適切である、と考えている。

3 議題

（1） 部会における検討結果について

・事務局より資料1-1の説明

（小幡部会長）事務局から資料1-1により、環境審議会へ報告する京の環境共生推進計画の進捗状況の総括案について説明をいただいた。質問、意見があればお願いしたい。

（山田課長）前回部会において、（平成23年度における）京エコロジーセンターの入館者数が開館以来最多であったと報告したが、その理由は、開館10周年に向けて、多くのイベント等を開催したことに因るものである。今年度も来館者数は維持しており、前年度よりやや増加になりそうである。

（徳地委員）環境指標の進捗状況の表中に示した進ちょく度「◎、△、×」の印は、全部の指標にはつけないのか。

（山田課長）目標値を掲げた環境指標についてのみつけている。このことについて、注釈をつけることとする。

（小幡部会長）部門別のCO₂排出量について、産業部門において半分ほど減っているが、その理由は何か。

（今井地球温暖化対策室担当課長）京都市内から工場（製造業）が減っていることと、工場等設備の省エネ効率が高まっているためと分析している。今後も、ものづくりの産業は維持していきたいので、エネルギー効率を高めることを企業にお願いしていきたい。

(2) 平成 24 年度版 環境レポート案について

・事務局から平成 24 年度版環境レポート案について説明

- (徳地委員) 資料は見やすくなり良いと思うが、最初に「京都市の環境の現況」としてまとめている箇所が、まとめとして目立っていないことから、もっとわかりやすいように工夫したらどうか。見開きのページでは、大規模太陽光（メガソーラー）発電所の場所が書かれていないので一般的な話のように思われてしまう。地名や場所を入れたほうがよい。また 5 ページ目の Q & A の箇所の真ん中、「などさまざまな影響をもたらします」の配置を変更しては。文言について、6 ページの上の箇所、「車を利用し過ぎると空気が汚れたり、地球温暖化が進行してしまいます」の文章では「たり」が 1 回だけだが、「たり」を使用した場合、もう一度「たり」を使用することが良いと思われるので確認いただきたい。
- (山田課長) 環境の現況がまとめであることが分かるように工夫する。メガソーラーについては、京都市伏見区水垂という場所にあり、加えることとする。5 ページ目の文言はページの左端に掲載し、見え方を工夫する。6 ページ目の文章についても確認する。
- (徳地委員) 6 ページの「ほんまもの」という言葉だが、「ほんまもの」と言うのか「ほんまもん」と言うのか。よく聞くのは「ほんまもん」であるがいかがか。
- (山田課長) パークアンドライド事業を行っている部署で「ほんまもの」をよく使用しているため、表現を合わせている。
- (板倉委員) 12 ページ下、市民協働発電制度について「平成 25 年 3 月に稼働しました」と記載されているが、まだ先のことをこのような表現にするのはどういうことか。
- (山田課長) 環境レポートは 3 月末発行予定であり、当該事業も 3 月中に稼働することで制度設計していることから、このような表現にしている。
- (板倉委員) 太陽光発電システムは既に設置されているのか。
- (今井課長) 今は、まだ工事に入っていない。今のところ 3 月中に稼働する予定である。今、出資者を募っているところであり、工事は未着工だが、既存の建物の屋根につけるため工事自体は短期間で、それ程難しいものではない。出資者が集まれば 3 月に稼働する見込みである。
- (板倉委員) 出資が集まらなかったらどうするのか。
- (山田環境企画部長) 今年度中に開始すると太陽光発電量 1 キロワット時あたり 42 円での買い取ることに基づき制度設計をしている。何としても 3 月には稼働しないとこの制度設計が成り立たないため、間違いなく稼働させる。

(3) その他

- (小幡部会長) 本日の議題について、一言ずつ感想等言っていただいて終わりにしたい。
- (板倉委員) 環境レポートは、市民が手に取りやすいように、区役所等に置くだけでなく、一工夫、考えてほしい。
- (小幡部会長) 京都精華大学でも置いて配っていただければと思う。
- (板倉委員) 配架する。
- (奥原委員) 産業部門、民生・業務部門等の二酸化炭素排出量について、景気の状態によって変化するものである。「工場の数が減っている」との話が先ほどあったが、その原因が気になる。政権が変わり、景気の変動に応じて、二酸化炭素排出量が今後 1、2 年で大きく変わる

可能性もある。景気の回復が京都にとって良いことである反面、二酸化炭素排出量が増加する心配もある。原単位あたりの温室効果ガス排出量を削減するという取組も必要かと思う。また、温室効果ガスは目に見えないので、排出量を削減することの効果が分かりにくい等、難しい面もある。行政や経済団体が取組にインセンティブを付けるなどして、きっかけをつくり、結果的に温室効果ガス排出量が減っていくような方向に持っていくことができれば良いと思う。最後に、京の環境共生推進計画は、震災発生前に立てた計画であり、現在は意識や構造等が大きく変わってきている。そのあたり、どのように盛り込まれていくのかと考える。

(小幡部会長) 京都市もこれまで進めているところではあるが、より「見える化」が必要になってくると思う。

(吉村委員) 私事であるが、いろいろと知らなかったことを勉強させていただいた。家庭から出る生ごみの6分の1が手つかずの食品であることは、知り合いの皆さんに伝えても非常に驚かれる。意識が変わったとありがたく思っている。また、市民がもっと参加できるような情報が入っていると良いと思う。市民は意外と市民しんぶんを見ている。

(徳地委員) ごみ、CO₂に関しては、どこの市でも最終的に問題になっているのが家庭からの量が減らない点である。今回の環境レポートについては、ごみ問題とCO₂の問題が明確に書かれていると思った。皆にこれを読んでもらいたいと思う。

(小幡部会長) 広報の方法を京都市から伺いたい。

(山田課長) これまで区役所等を中心に配架している。区役所についても、エコまちステーションという、ごみの関係の窓口に置いているので、ある程度ごみに対しての質問に答えやすくなっていると思う。ただ、これ以上いろんなところに設置場所を増やしていくことも考えなければならない。皆さんの知恵も借りながらやっていきたいと思う。

(山田部長) 来年度から紙ごみの分別リサイクル取組のモデル実施をする予定。各1,000世帯、全部で11,000世帯をモデル地域とし、本格実施が平成26年度からという形で取組を進めていく。その際には、各町内会に職員が入り、いろんな取組の説明をしなければならない。そういった際に、このパンフレットや、もう少しコンパクトにしたもの等を用いて説明するなりし、地についた周知の方法に努めていきたいと思っている。

(吉村委員) これは、全市民に配布するのか。回覧すれば一応は目に入ると思うが。

(山田部長) そうすれば一番よいがそこまでの予算はない。ダイジェスト版のようにする、あるいは市民しんぶんで特集を組んで、この中のエッセンスを入れる等、そういった工夫に努めたい。

(小幡部会長) 今年度も感想文等のアンケートはあるのか。

(橋本調査係長) これまで同様、アンケートを挿むこととしている。

4 山田環境企画部長 挨拶

5 閉会